

第1章

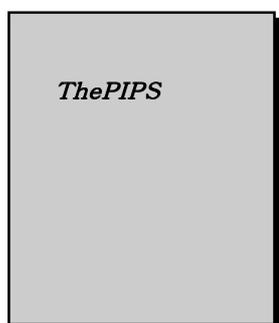
ようこそ「ThePIPS」の世界へ

この章の内容

この章では、「ThePIPS」の紹介と、ThePIPSを使っていく上での基礎知識を習得していただくために説明しています。

ThePIPSは簡単な計算から、高度なシステム設計までを網羅しています。

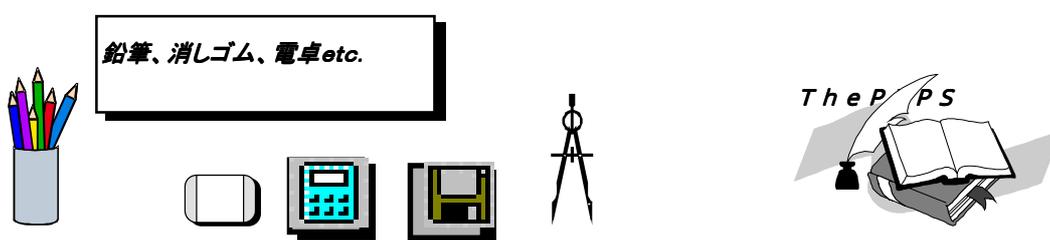
Windowsの操作性をプラスして、はじめての方にも使いやすく分かりやすい操作性を提供しています。



1 ThePIPSとは



仕事が主役、人間が主役、コンピュータは道具。
一見当たり前のこの考えがPIPSという **かたち** になった。



ここ数年のコンピュータ価格破壊やWindows、マルチメディア、インターネット等のおかげで急激にパソコン人口が増えてきました。待ちに待っていたのに、パソコン1人1台の時代が突然やってきました。しかし、今までも果たしてどれだけの人がコンピュータを道具として使いこなしてきたかが疑問です。

「仕事が主役でコンピュータは道具。」なので、ThePIPSを使いこなすために必要なのはコンピュータの知識ではなく、むしろ仕事の知識やノウハウです。

ThePIPSは、原点よりビジネス志向。あらゆる業務に対応できる高い汎用性をもっています。あなたの想像を創造に変えていく自由と柔軟性を持っています。まるでコンピュータの中にノートがあり、鉛筆や消しゴム・電卓・定規...日ごろの実務に必要な事務用品が入っているような感覚です。

PIPSはコンピュータを知らない方にも簡単にコンピュータを実務で使っていただくよう1980年に「*Pan Information Processing System* (汎用情報システム)」として開発されました。以来、ユーザの皆様のご意見を取り入れ、より強力に、より実務に役立つようにと進歩してきました。

そして今回プラットフォームをWindowsにして、より分かりやすいGUIと操作性をご提供できるようになりました。

ぜひコンピュータを仕事の道具(ツール)として使うためにこの入門書に少しのお時間おつきあいください。

2 The PIPSの特徴

PIPSがなぜ実務に簡単に密着することができるかは、次の特徴によるものです。

● 対話形式

仕事の始めに指令を出したら、その後は画面に出てくる質問に答えるだけ。分からないときは、ヘルプが対応します。

メニューやツールバーから指令を実行した場合は、ダイアログボックスが画面に開き、その中に必要事項を書き込んでいきます。

● データが財産

データ整理が分かりやすく簡単です。

キャビネット、バインダー、ページといった3段階の保存により、他のソフトにはない整理整頓ができます。The PIPSは1画面を1ページと考えます。自由に縦横の大きさを変えて使えます。そこに表を作って売上データを書いたり、顧客情報を書いたりしてデータを作ります。そのページ(画面)をバインダーに保存していきます。バインダーは自由に名前がつけられますので、いつも使っていたバインダーと同じ名前をつけると分かりやすくいいでしょう。たとえば「住所録」や「売上台帳」のように。キャビネットはそのバインダーたちを入れておく棚や引き出しのようなものです。どの棚に入れたかなと後で分からなくなないようにキャビネットにも分かりやすい名前をつけておきましょう。

The PIPSでは**データを財産だと考えます**。データさえあれば、どんな集計も、分析も自由自在にこなしていきます。

できるだけ、生データに近いものを保存しておきましょう。

● 指令方式

The PIPSは、人とパソコンの間で通訳をします。あなたが与えた指令をPIPSはパソコンに伝えます。パソコンから返ってきたメッセージをあなたに伝えます。あなたはそれに答えるだけで、仕事はスムーズに進んでいきます。そうやってコンピュータを知らない人たちがコンピュータを自由自在に使えるわけです。



はじめまして...ぼくがパソコンとみなさんの間で通訳をします**PIPS君**です。ぼくは誰もが簡単にパソコンを使って業務ができるようにと1980年に日本で生まれました。ぼく自身は業務を知りません。お仕事の達人である皆さんが「こうしろ! ああしろ!」と命令してくれば、ぼくは忠実に通訳します。僕を上手に使ってお仕事頑張ってください!!

- **強力な演算機能**

四則演算はもちろん、たくさん用意された関数。得意とする複数ページに渡る演算、小計、クロス集計、区間の計算、繰り越し計算等あらゆる業務に対応できます。

- **多彩なデータ加工機能**

データの分類、並び替え、照合、削除、更新、変更など自由自在。

- **オート機能**

指令をつなげたり、オート専用の指令や変数を使ったりして、定型業務を完全自動化も可能です。

- **通信機能**

ThePIPS同士をケーブルで接続し、PIPSデータを転送します。モデムと電話回線を使えば、離れたところにあるThePIPSとでもデータの転送が行えます。また、オート機能を使ってパソコン通信ホストと接続し、パソコン通信サービスを受けることも可能です。

- **グラフ機能**

PIPSの表データを即座にグラフにします。
オート機能で完全自動化ができますので、定型業務上でグラフも自動化を実現。

- **ワープロ機能**

文書やコメントが表の内外問わずどこにでも書き込めます。
ワープロ 表 ワープロへのモード切り替えも簡単。自由自在にどこにでも文字を書いてください。

- **印刷機能**

帳票印刷から伝票印刷まで。プリンタへコードを送ることができるので、指定伝票等の印刷も楽々こなしてしまいます。

3 ThePIPSの仕事の流れは、

いつもの仕事の流れといっしょ

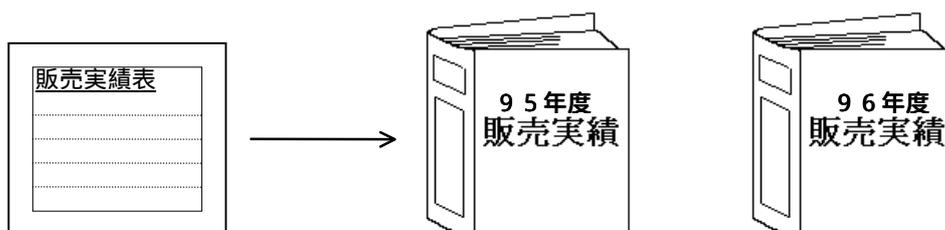
たとえば、あなたは今日、自社製品の売上状況を分析したいとします。
まずあなたは、売上データをかき集めてきます。それはバラバラの伝票だったり集計されたものだったりいろいろかもしれません。

1. 毎日の売上額のデータを集めてまとめます。
(PIPSでは) データを入力します。
2. 日ごとの売上の合計をだし、月ごとの粗利を出します。
(PIPSでは) 計算させます。
3. 必要なデータだけの表を作成します。グラフを作ります。
(PIPSでは) 粗利の高い順に並べ替えます。
グラフを作ります。

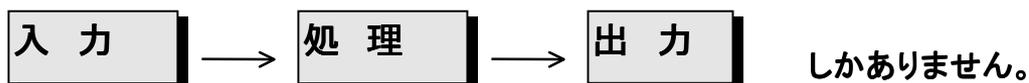
といった作業を考えたとき、ThePIPSでの作業は、いつもの手作業とまったく同じ流れで進みます。

流れは同じでも性能は違います。ThePIPSは、あなたが不得意なところを得意としています。とっても便利で、頼もしい奴なのです。

さあ、出来上がったら売上関係の台帳にとじておきましょう。



コンピュータの世界は単純で、



コンピュータを使いこなすにはいかに自由自在にデータが加工できるかが重要になってきます。その柔軟性が仕事の「道具」となって、いつでもあなたの力になってくれるでしょう。

4 ThePIPS for Windows に

必要な環境は

Windows 95が重要です

注意！！

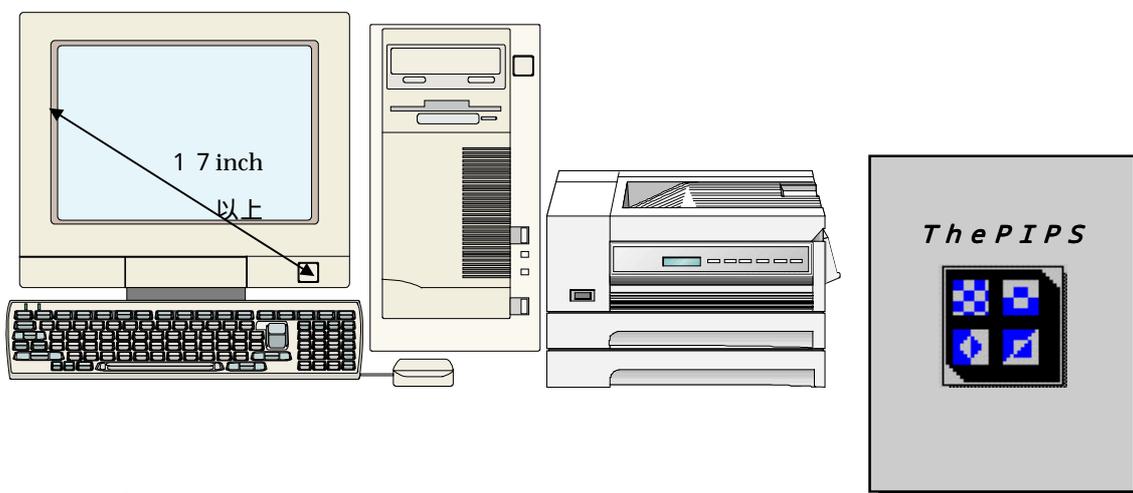


次の環境では保証していませんのでご注意ください。

- Windows 3.1にWin 32 Sをインストールした環境
- OS / 2環境

推奨するコンピュータ環境

- CPUはIntel Pentium - 75MHz以上
- メモリは16MB以上(24MB以上を推奨)
- ディスプレイはSVGA以上(1024×768以上を推奨)
- CRT(画面)は17inch以上
- マウスは必要です。

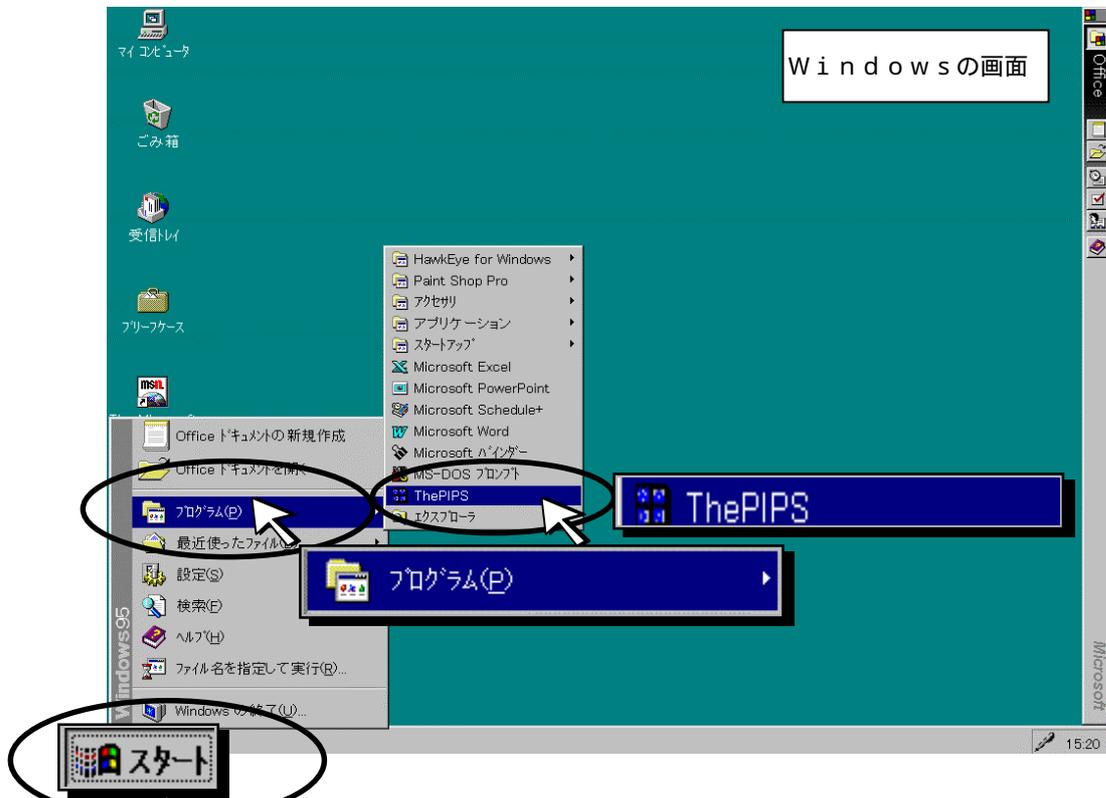


必要なディスク容量

ThePIPSをハードディスクにインストールするためにはハードディスクの残り容量が約10MB以上必要です。またThePIPSのデータを保存する容量も別途必要となります。

5 ThePIPSの起動と終了

ThePIPSの起動

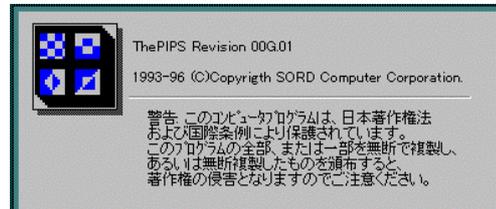
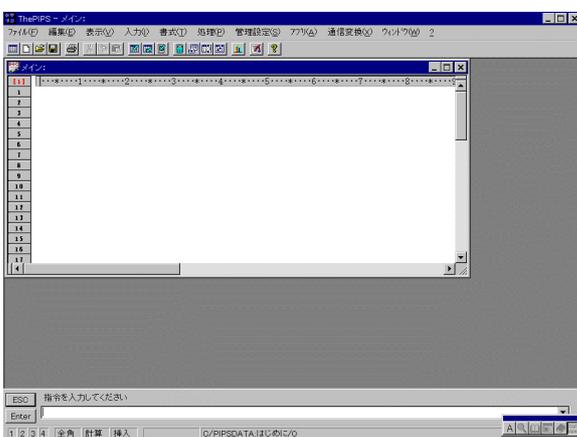


1. Windowsの状態で
スタートボタンを左クリックする

2. プログラムを左クリックする

3. ThePIPSを左クリックする

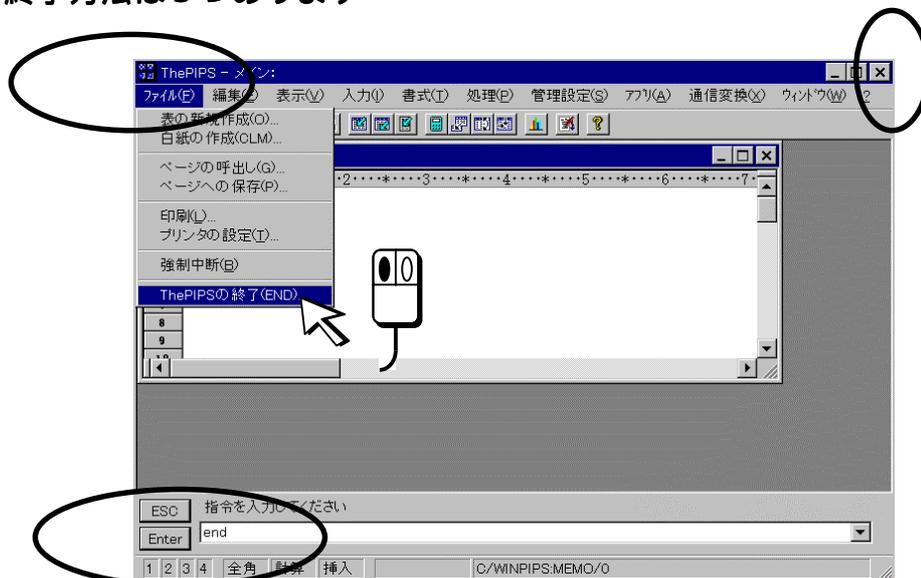
ThePIPSの初期画面



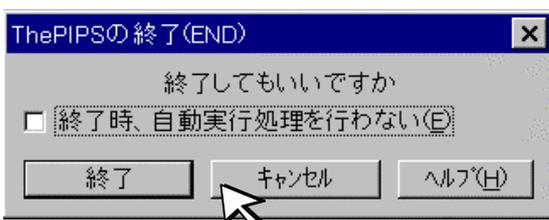
ThePIPSが立ち上がりました。
あなたの仕事の効率が上がるように、これから
少しずつThePIPSの機能を覚えていき
ましょう。大丈夫！PIPS君という強い味
方がついていきますから。

ThePIPSの終了

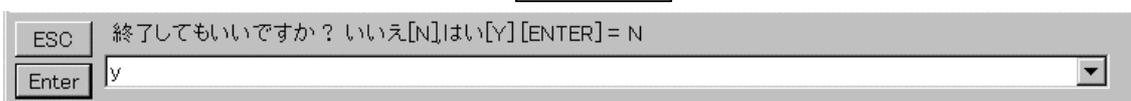
終了方法は3つあります



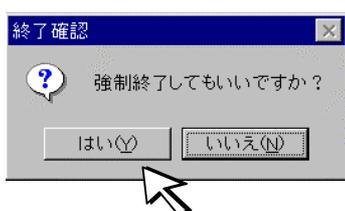
- メニューの **ファイル** をマウスでクリック **ThePIPSの終了(END)** を選択します。すると次の確認メッセージが出ますので、 **終了** を左クリックしてください。



- 指令入力ウィンドウに「end」と入力し **Enter** キーを押します。確認メッセージには「y」と入力して **Enter** キーを押してください。



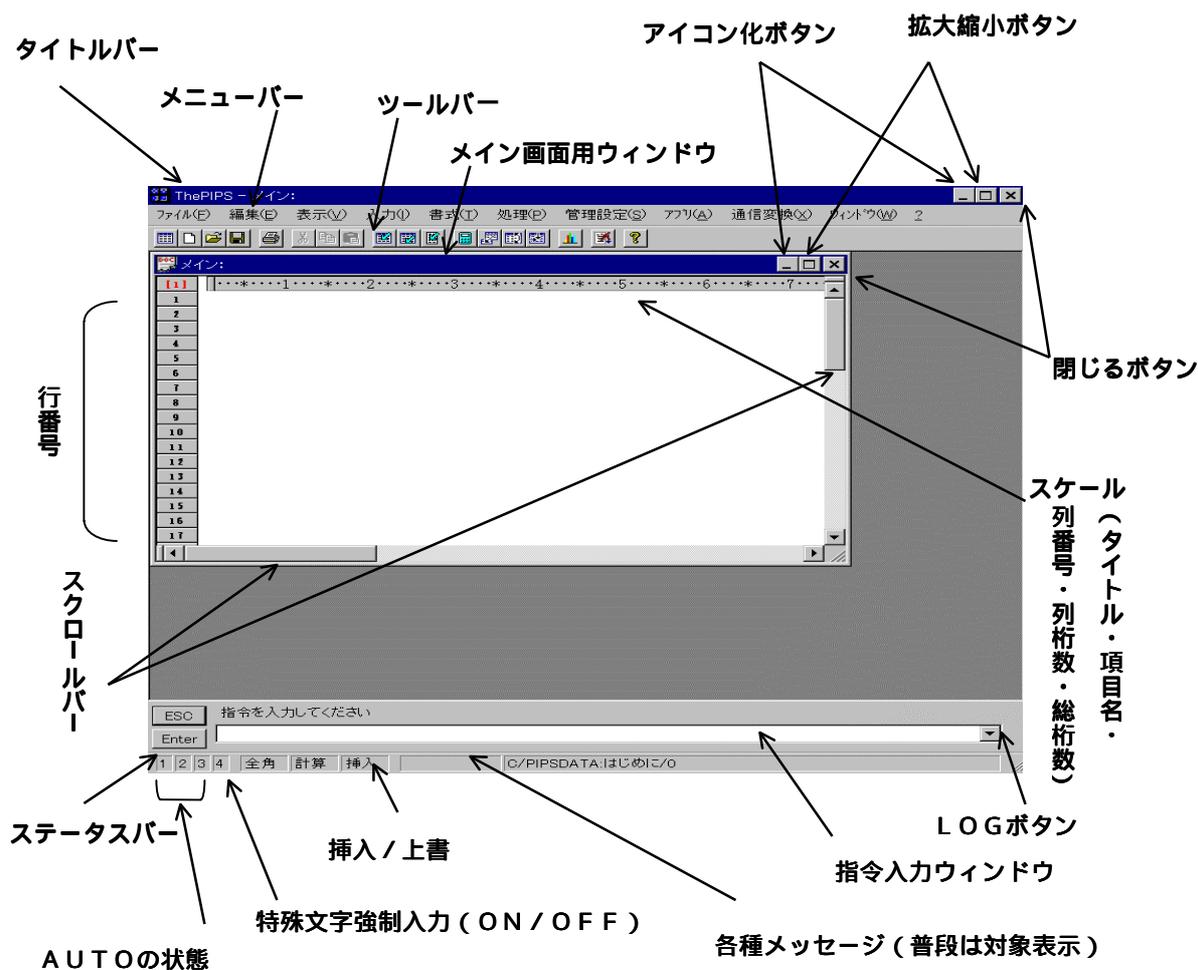
- 画面右上の **X** (閉じるボタン) を左クリックします。確認メッセージは次のように出ます。 **はい(Y)** を左クリックしてください。



6 初期画面

The PIPS を起動した直後の画面です。

各名称を覚えましょう。



画面はいくつかの部分に分かれています。

上部にはタイトルバー、メニューバー、ツールバーなどが表示されています。各種機能をここから指定して利用していきます。

その下には各種ウィンドウを表示するエリアがあります。主画面ウィンドウやオート専用ウィンドウが表示されます。

最下行には、The PIPS の各状態を表示するステータスバーが準備されています。

オートの実行状態などがここに表示されます。

7

通訳を頼むには…方法は3通り

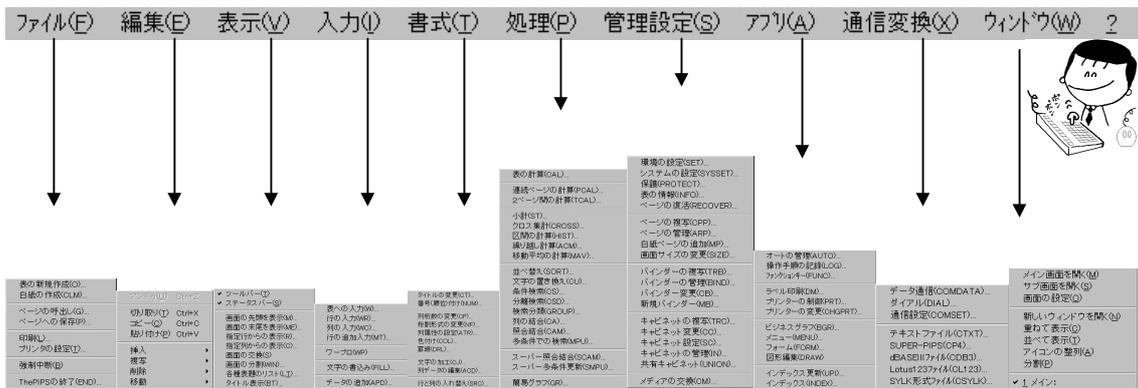
PIPS君に通訳を頼む方法は3つあります。メニューバーからとツールバーからとそしてシステムウィンドウから指令を直接入れる方法です。

メニューバーとツールバーから実行させたときはダイアログボックスが対応します。

指令を直接入力した場合は、対話形式で進みます。お好きな方法をお選びください。

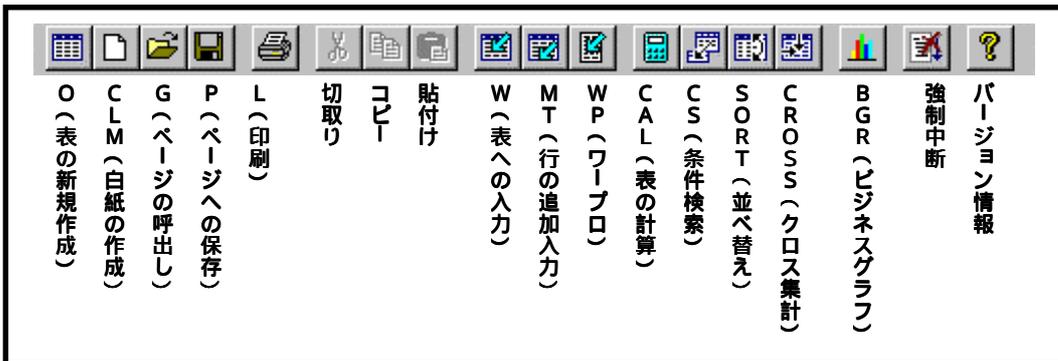
● メニューバーから

メニューバーよりThePIPSの各種機能を実行する事ができます。



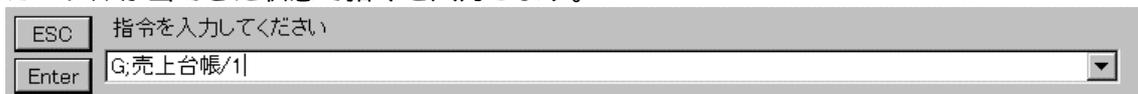
● ツールバーから

ツールバーのボタンをマウスでクリックすればメニューバーを利用しないで直接機能を実行する事ができます。ツールバーは使用頻度の高い機能を集めています。



● 指令入力ウィンドウから

システムウィンドウにエディターボックスがありますので、そこをマウスで左クリックしてカーソルが出てきた状態で指令を入力します。



8 行列の指定方法

The PIPSではメイン/サブ画面を加工する指令や集計等で行や列、マトリックスを指定することが日常茶飯事に出てきます。指定の仕方をしっかり覚えておきましょう。

初めての方には「行はどっち?」「列は?」「マトリックスってなあに?」と聞かれる事も度々です。

行 (Row) とは

1						
2	SAMPLE1	SAMPLE2	SAMPLE3	SAMPLE4	SAMPLE5	SAMPLE6
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						

行には1件分のデータが入ります。

例えば「早川久美子さんが」「いつ」「何を買って」「いくらだったか」のように一人の人の情報を書いていきます。

列 (Column) とは

1						
2	SAMPLE1	SAMPLE2	SAMPLE3	SAMPLE4	SAMPLE5	SAMPLE6
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						

列には1種類の情報が入ります。

例えば、「商品名」の列「単価」の列「数量」の列「金額」の列といったふうに1つ1つの情報を書き込んでいきます。

マトリックス (Matrix) とは

1						
2	SAMPLE1	SAMPLE2	SAMPLE3	SAMPLE4	SAMPLE5	SAMPLE6
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						

マトリックス(セル)は行と列が交差したところです。

1つのデータが入る場所。例えば、「早川久美子さんの買われた商品名」というように。

行の削除を例題に説明します。

編集(E) 表示(V) 入力
 切り取り(T) Ctrl+X
 コピー(C) Ctrl+C
 貼り付け(P) Ctrl+V
 挿入
 複写
削除
 移動

行の削除(DR)...
 列の削除(DC)...

行の削除(DR) x
 処理対象(P):メイン画面 対象変更
 削除する行番号(D):
 4
 指令繰り返し(Q) 印刷(L)
 実行 キャンセル ヘルプ(H)

マウスで左クリックして、まずここをアクティブにしま

削除された行はなくなり、上へ詰まります。

連続した行(列)の指定方法

Shift

+

行の削除(DR) x
 処理対象(P):メイン画面 対象変更
 削除する行番号(D):
 4,6
 指令繰り返し(Q) 印刷(L)
 実行 キャンセル ヘルプ(H)

ここをアクティブにしたら、**Shift** + マウス(左クリック)で指定していきます。
 キーボードからは「,」で指定します。

任意の行(列)の指定方法

Ctrl

+

行の削除(DR) x
 処理対象(P):メイン画面 対象変更
 削除する行番号(D):
 4/6/8
 指令繰り返し(Q) 印刷(L)
 実行 キャンセル ヘルプ(H)

ここをアクティブにしたら、**Ctrl** + マウス(左クリック)で指定していきます。
 キーボードからは「/」で指定します。

第1章

行のコピーを例題に説明します。

ここをアクティブにします

元表

まずマウスボタンでコピーしたい行をします。この場合は連続行なので **Shift** +

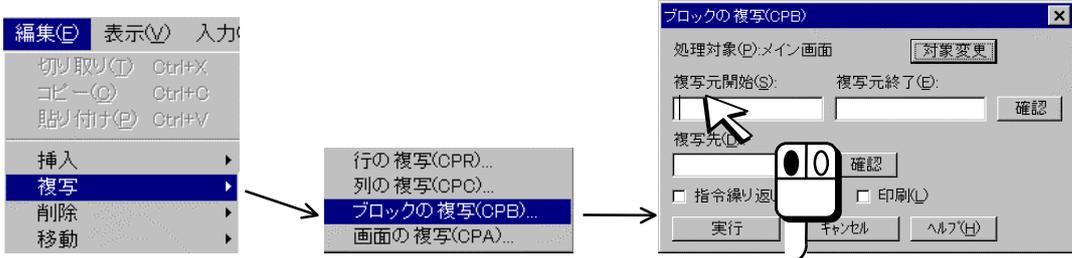
結果表

コピーの場合は指定先にコピーされた分、行は増えます。

移動の場合は指定した行が指定した位置へ移動するだけで、行は増えません。

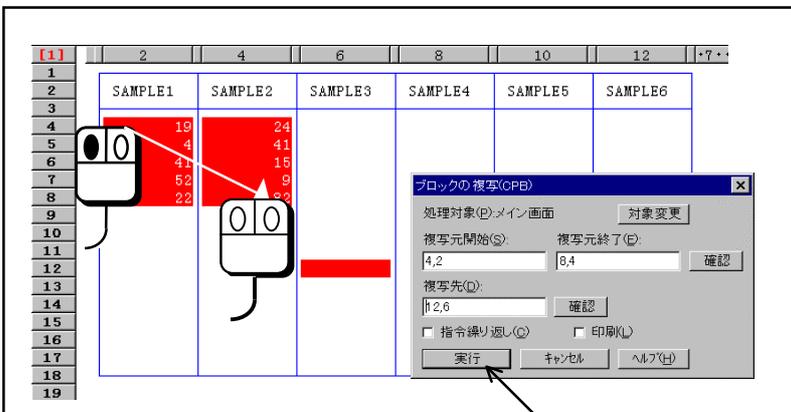
コピーしたい行へマウスカーソルを合わせて左クリックします。

ブロックコピーを例題に説明します。



ここをアクティブにします

元表



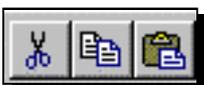
複写元開始のエディットボックスをアクティブにして、複写開始したいセルにマウスカーソルを合わせて左ボタンを押しながら対角線上にマウスをドラッグ。複写終了位置でマウスから指を離します。

次に複写先のエディットボックスをアクティブにします。複写したい開始位置のセルにマウスカーソルを合わせて左クリックしてください。これですべてのセル位置がダイアログボックスに入力されますので、**実行**

結果表

ブロックコピーの場合は、コピー先は上書きになります。指定した範囲を指定した位置へ複写します。

	2	4	6	8	10	12
1						
2	SAMPLE1	SAMPLE2	SAMPLE3	SAMPLE4	SAMPLE5	SAMPLE6
3						
4	19	24				
5	4	41				
6	41	15				
7	52	9				
8	22	82				
9						
10						
11						
12			19	24		
13			4	41		
14			41	15		
15			52	9		
16			22	82		
17						
18						
19						



複写、移動等はこのようにThePIPSの指令の中にもありますが、行と1セルに限ってはカット＆ペーストでもできますので、ご利用ください。

9

ダイアログボックスいろいろ

The PIPS の特徴の 1 つに、「対話形式」があります。まず、コンピュータにさせたい仕事の指令を与えると後はコンピュータが聞いてくる質問に答えていきます。そしてその対話が終わったとき、1 つの仕事が完了しています。

Windows 上でこの特徴を生かすためには、指令を入力して実行させる方法と、もう 1 つは、対話の部分をダイアログボックスに置き換えるというところでした。

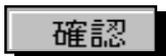
考えてみれば、今まで 1 つ 1 つ聞いてきてた質問がダイアログボックスに集約されているのですから、ダイアログボックスは質問シートみたいなものですね。指令をメニューバーやツールバーより実行させた場合は、このダイアログボックスが大活躍をします。

基本的な使い方を習得されたら、1 度じっくりとダイアログボックスに書かれている項目を確認されると、きっと今までのやり方以上に簡単にすごい事ができるようになるでしょう。

このエディットボックスをマウスで左クリックしてアクティブ状態にしたら、削除したい行番号を入力します。



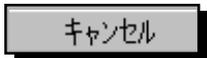
← 表示されているダイアログボックスを閉じます。



← 入力した内容確認のためのボタンです。



← ダイアログボックスに入力された内容で指令を実行します。

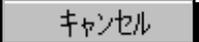


← ダイアログボックスの内容をキャンセルします。



← 表示されているダイアログボックスの内容でよければ、左クリックします。



←  を押すまでその指令の状態を続けます。



← 指令実行結果を印刷します。



← メイン画面対象の処理をする指令を複数ページ処理させたいときに押します。次のダイアログボックスが出てきます。



参照...

← このボタンをクリックするとページ一覧が出てきます。



次へ(N) >

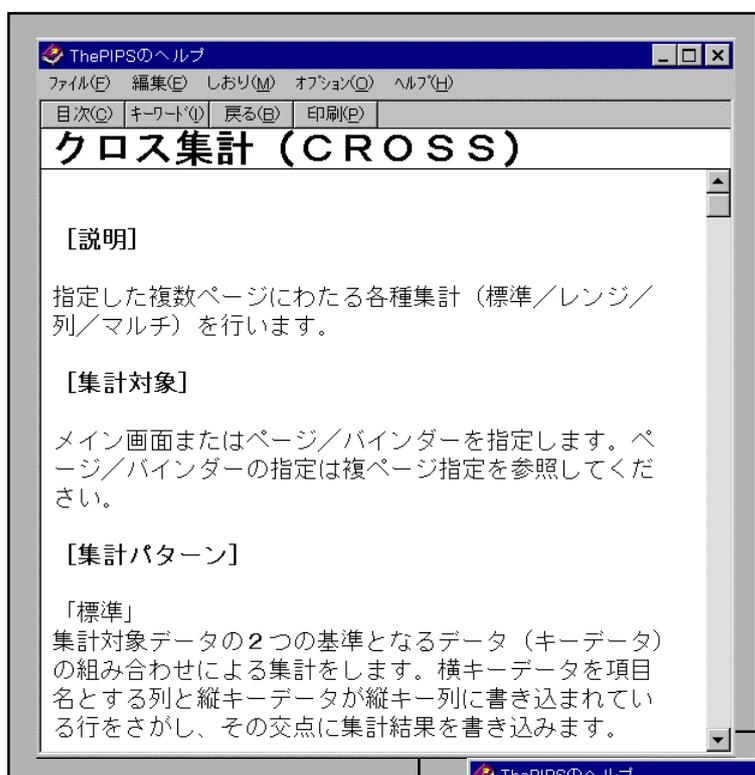
← 次のダイアログボックスに進みます。

< 戻る(B)

← 1つ前のダイアログボックスに戻ります。前のダイアログボックスの内容を確認したり、変更したいときにクリックします。

ヘルプ(H)

← 何を入力していいかわからない時にクリックします。下記のような指令のヘルプが表示されます。

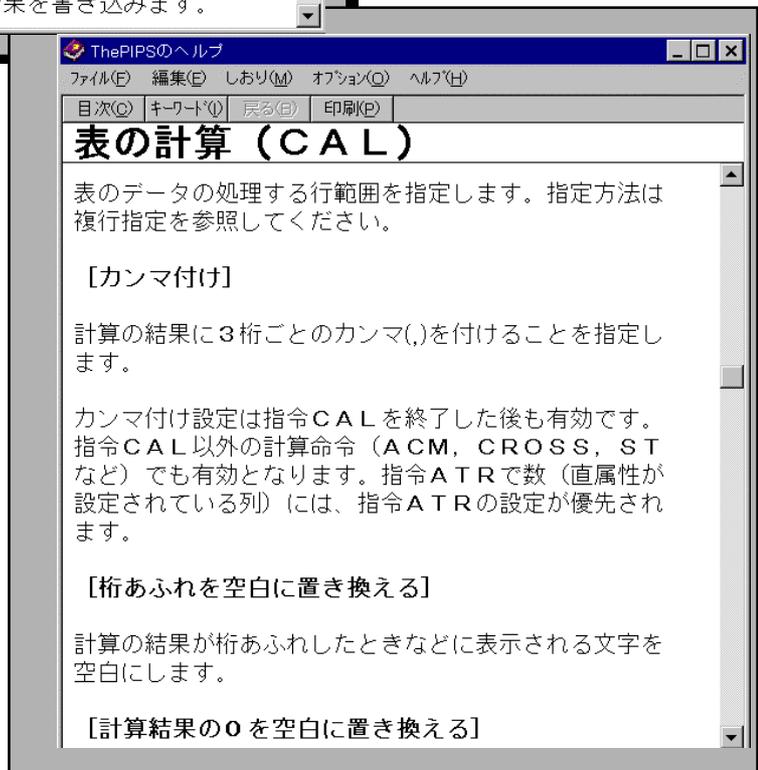


ヘルプ画面

ヘルプは、そのダイアログに合わせて、出てきます。基本的にはその指令全体のヘルプになっていますので、ヘルプ画面右横のスクロールバーを使って、スクロールしていけば、さかのぼっても見れますし、反対も可能です。

Help !

Help me..



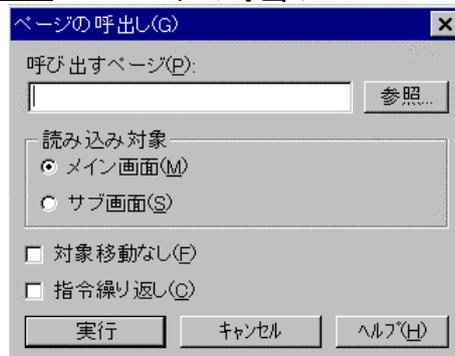
主な指令のダイアログボックスの顔です



指令 O (Original table)
表の作成



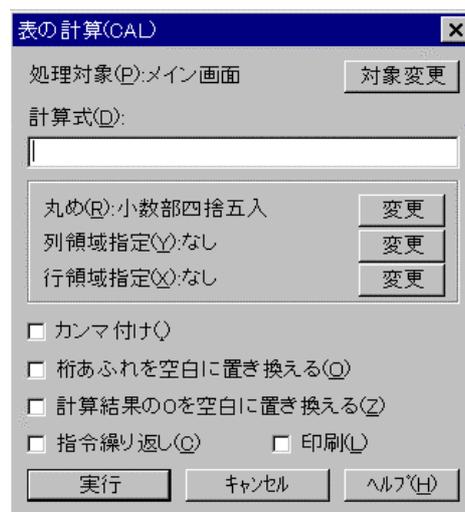
指令 G (Get)
ページの呼出し



指令 W (Write)
表への入力



指令 C A L (CALculation)
表の計算



指令 S O R T
並べ替え



指令 L (List)
印刷

